

ストレステストの構築と活用に関する考察

キャピタスコンサルティング株式会社

森本 祐司

概要

金融危機を踏まえ、多くの専門組織などから、従来用いていた定量的なリスク管理手法を補完することを目的としたストレステストの重要性が指摘されている。中でも、仮想ストレステスト、もしくはフォワードルッキングなストレステストと呼ばれる、過去に発生したストレスイベントに依らないストレスシナリオの構築および活用が求められている。

ただし、そのようなシナリオを構築すること、中でも相応に適切な蓋然性を持った仮想シナリオであるかどうかを判断するのは極めて難しいとの声が多く聞かれる。特に、金融機関という組織体としてそうしたシナリオを構築し活用することの困難性に直面してしまうケースが多く、シナリオを深く吟味せず、形式的・感応度的な計算にとどまっているケースも多く見受けられる。

本稿では、こうした状況を整理するとともに、フォワードルッキングなストレスシナリオをどのように構築すべきか、構築にあたって考慮すべきと考えられる事項などについての考察を行う。